



とんからりん文庫
つちや とみこ おくいえ やすこ
土屋 富子さん・奥家 康子さん
こころのよりどころ
本を通じて感性を磨く

平成23年(2011)7月に開設し、昨年に10周年を迎え、吉富町から「善行表彰」を受賞したとんからりん文庫開設者の土屋富子さん。土屋さんは長年小学校に務め、図書館に関する仕事をしていく中で、「歩いて行けるところに図書館があればいいな」という思いが開設するきっかけとなりました。この場所は、地域の子どもたちが本を読んだり、中庭で遊んだり子どもたちの憩いの場として利用されています。また、小さなお子様の本に慣れる場として、子連れのお母さんたちの利用もあるそうです。とんからりん文庫を開設し、子どもたちと触れ合っていく中で頂くお便りやちょっとしたプレゼントがとても嬉しく、「子どもたちのために苦勞するのも一つの楽しみ」とのこと。

また、土屋さんと奥家さんは平成24年(2012)から読書ボランティア活動も始め、町の子育て支援センターや乳幼児健診での読み聞かせ、豊前語り部の会など様々な活動に取り組んでいます。乳幼児への読み聞かせでは、表情を見て楽しんでもらうことにこだわっておられ、コロナ禍でも感染対策をしっかりと行いながら読み聞かせをしています。他にも手遊びや体遊びも行い、子どもの感性を育てており、「子どもたちの成長を間近で感じられることで、たくさんのエネルギーを貰うことができる。絵本を通して感性や思考力の向上、相手の気持ちを理解できる子になってほしい。これからもとんからりん文庫のおばちゃんとして子どもたちとたくさんお喋りして、鳥の鳴き声を聞きながら過ごしたい。」と笑顔で語ってくれました。(レポーター/めんたいおにぎり)

話題のお店 町おこしカフェ
Antique&Cafe Annola



平成筑豊鉄道犀川駅前のカフェ。日々更新しているインスタグラムをみて、遠方から来店する方も多く土日は満席になるほどです。庵主 岩村宗一郎(28)さんは、地元犀川を旅の目的地とするためUターンをして令和3年(2021)11月にカフェをオープン。リフォームを独学し、3か月間で空き家を改修しました。店内は、岩村さんと家族が集めているアンティークのインテリアと食器がずらりと並んでいます。インドネシアの大使館から譲り受けたテーブルや昔のミシンをテーブルとしている席もあり、座るだけでも楽しむことができます。メニューは飲み物とデザートが中心で、全ての商品がテイクアウト可能です。窓際の席からは、動物のサイをモチーフにした犀川駅と平成筑豊鉄道を眺めることができ、鉄道ファンの方にもおすすめです。

- クリームあんみつ 700円
- 抹茶オレ 700円

Shop Information

[住] みやこ町犀川本庄514-3 [☎] 070-7772-0573
[営] 11:00~17:00
[休] 水、木

(レポーター/バル)

みなさん盛り上がるのは夏だけじゃありません！秋も負けないくらい盛り上がっている京築地区のイベントを紹介しています。ぜひ足を運び京築地区の魅力を肌で感じてみてください。(レポーター/めんたいおにぎり)

京築応援団便り
豊のくにけいちく

「京築応援団」団員募集中！(入会無料)

京築を応援するファンクラブに入りませんか？
お申し込みは「京築まるごとナビ」から

発行:京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局(福岡県政策支援課内)

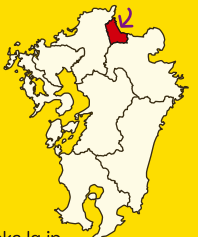
企画編集:京築応援団会報編集委員、豊の国海幸山幸ネット

問い合わせ:福岡県政策支援課/〒812-8577 福岡市博多区東公園7番7号

TEL 092-643-3178/FAX 092-643-3164/E-mail keichiku05@pref.fukuoka.lg.jp



いーな 京築ってこ



けいちく検定

難問！古墳巡ックイズ



【問1】 刈田町で三角縁神獣鏡(国指定重要文化財)が出土した古墳はどこだ？

【問2】 全長100mの行橋市内最大の前方後円墳の名前はなんなんだ？

【問3】 みやこ町黒田小学校の校庭にある古墳はなんなんだ？

【問4】 陶芸体験ができる堂がえり古墳が4つある場所はどこだ？

【問5】 「船を描いた線刻石」が出土したことで知られる古墳群はどこだ？

【問6】 葉っぱや水鳥、魚などの壁画が残っている山国川流域屈指の巨大石室墳はどこだ？

【問7】 吉富町広津にあるこの古墳の名前はなんなんだ？

新早牟田(2回) 新早牟田(4回) 新早牟田(9回)
新早牟田(9回) 新早牟田(9回) 新早牟田(9回)
新早牟田(9回) 新早牟田(9回) 新早牟田(9回)

京築応援団便り
豊のくにけいちく

Toyonokuni Keichiku 2022 October

©IZUMI HARAGA



行橋駅

権田駅

宇島駅

三毛門駅

吉富駅

中津駅

柳ヶ浦駅



■日時 10月30日(日)10:00~16:30
■場所 吉富フォーユー会館周辺

*イベントの詳細は町のホームページまたは下記のQRコードをご覧ください。

〈よしとみイコト通信Instagram〉



今年の吉富町は、恒例のマルシェに加えて、町制施行80周年記念イベント「よしとみサステイナブル・ファッションショー」と町民文化祭も同時開催されます。SDGsをテーマとして環境問題を考える「よしとみサステイナブル・ファッションショー」では、人気モデルの山之内すずさんが出演され、リメイクした衣装を身にまとった学生や住民のみなさんも参加し、イベントを盛り上げてくれます。マルシェでは、キッチンカーなど約30店舗のお店が出店し、苗木の無料配布も行います。今秋一番の盛り上がりをめせる吉富町のイベントにみなさんお誘い合わせのうえ、ぜひお越しください。また、吉富町・行橋市・築上町・豊前市・大分県中津市・大分県宇佐市の6市町合同イベント「2022県境を越えて電車」でハロウィンも同時開催しています。(レポーター/めんたいおにぎり)

よしとみサステイナブル・マルシェ開催！——吉富町

コロナ禍三年目の秋となりました。今年の秋は、これまで自粛していた京築のまつりが感染対策をとりながら、復活しています。疫病退散！工夫満載！京築の湧き上がるエネルギーを感じてください。

まつりだ！湧き上がる！エネルギー！

秋 vol.48

心をひとつに秋の京築まつり復活！それぞれの秋

宇都宮時代を超えてしのばれる

宇都宮鎮房といえば、豊前宇都宮氏最後の武將で、黒田官兵衛の宿敵として、一度は聞いたことがあるのではないだろうか。その

豊前宇都宮氏は、初代の信房が鎌倉時代初期、豊前国に入国し木井馬場（みやこ町）に神楽城を築き、その後一族が土着化した。特に、通房・頼房の時代には、鎌倉幕府執権の北条得宗家と結びつき、勢力を広げ、筑後国・豊前国守護に任命され、豊前最大の武士団となりました。鎌倉幕府滅亡後の南北朝時代、頼房は築上町本庄に本拠地を移し、菩提寺の天徳寺を創建しました。

南北朝時代、北朝方だった冬綱は突然南朝方として、反乱を起こし、今川了俊に鎮圧され、豊前宇都宮氏は急速に勢力を失いました。それ以降、大内氏（山口県）と大友氏（大分県）の巨大勢力に常に挟まれながらも、時代

の情勢を見極め自主独立の立場を貫きました。

戦国時代末期、鎮房は豊臣秀吉の九州統治に参加しましたが、九州の国分けて豊前国を黒田氏に与えられ、伊予国に転封となりました。これを不服として鎮房たち豊前

宇都宮氏は黒田氏に蜂起し、攻防は約3ヶ月間続きましたが、一族も次々に降伏し、遂に鎮房も和睦に応じました。しかし、天正16年（1588）4月20日、鎮房は中津城で、嫡王朝房も肥後で謀殺され、400年間続いた豊前宇都宮氏の歴史は幕を閉じました。

現在、城井谷にフットバスコースが設けられ、菩提寺の天徳寺などのコースがあります。当時の人々に思いを馳せながら城井谷を歩いてみませんか？

（レポーター「うめといと」）



▲天徳寺



応援団ひろば

体験型観光プログラム「京築めぐり2022秋」を開催しています！

心ほぐす気ままな旅へ、ようこそ。今回は、オンラインツアー2本と体験プログラム15本をご用意しています。京築地域の7市町をめぐるオンラインツアーは、遠方の方も京築のお土産を楽しみながらオンライン上でご参加いただけます。実際に現地で行う体験プログラムでは、秋の京築を存分にお楽しみください。多くの皆様のご参加を心からお待ちしています！詳しくは、「京築まるごとナビ」をご覧ください。

●問い合わせ先
 京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局（福岡県政策支援課内）
 【☎】092-643-3178



ふるさとミュージアム

修験と神楽とエコロジー

まつりだ！湧き上がる！エネルギー！

迫力満点 秋を彩る神幸祭！！

荻田町



イベントなどにつきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止などの可能性があります。詳しくはお問い合わせ先にご確認ください。



「荻田山笠」として知られる宇原神社の神幸祭は、580年の歴史を誇る福岡県無形民俗文化財でもあります。神様が御神輿でお旅所に行幸される際のお供として、各区の氏子が出した笠鉾や鉾山が起源だとされています。鉾鉾しに始まり灯山・轆山・岩山と三度姿を変えながら「国家安全」「五穀豊穡」「無病息災」を願う神幸祭は、10月第1日曜日に大祭を迎えます。高さ約15m、重さ約5～6tもの山車14基が神事場（役場東広場）に勢揃いした姿は圧巻！山車と山車との「突き当て」で、まつりのボルテージは最高潮に達します。

■日程：10月第1日曜日
 ■会場：荻田町役場 東広場
 ●問い合わせ先
 荻田山笠実行委員会（一般社団法人荻田まちづくり観光協会）
 【☎】093-434-5560

こうげ大池灯りの祭典 灯籠祭×イルミネーション

上毛町



竹灯籠の幻想的な灯りが大池を囲むこうげ大池灯籠祭は平成27年（2015）から始まりました。最初は「大池公園竹灯籠プロジェクト」として8000個からのスタートでしたが、今では15000個まで増え、大池を背にした親水テラスのステージでは多彩なパフォーマンスが盛り上がりを見せる、町の一大イベントとなっています。上毛町が掲げる町の将来像「みんなが輝くまち上毛」の実現を目指して開催している灯籠祭ですが、8年目となる今年は新たな試みとして、こうげ大池イルミネーションとの合同開催が決定しました。題して「こうげ大池 灯りの祭典」。暖かな竹灯籠の灯りと150000球のイルミネーションとのコラボにご期待ください！

（レポーター/ギョン）
 ■日時：10月1日（土）、2日（日）
 両日とも17:00～21:00
 ■会場：大池公園 特設会場
 ●問い合わせ先
 上毛町役場 企画開発課 【☎】0979-72-3112



後世に残そう「神の祭」 祈りと感謝を込めて！

豊前市



平成28年（2016）に「豊前神楽」、令和2年（2020）に、二年に一度行われる豊前の感応祭が国の重要無形民俗文化財に指定されました。それらを広く内外へ発信する豊前市の伝承事業として「豊前神楽祭り2022」が開催されます。前夜祭は地元子ども神楽（6団体）と湯立神楽。2日目は地元神楽講（6団体）、特別奉納として豊前感応祭保存会による「感応祭」の競演を楽しんでいただけます。コロナ禍により観客を入れての開催ができるかは決まっていますが、ライブ配信・Webによる情報発信を予定しています。皆様の前で奉納される3年ぶりの神楽、待ち望んでおられる方も多いのでは？「悪疫退散」・「五穀豊穡」を願っての神楽の祭典、お楽しみください。

■日時：11月5日（土）15:00～ 11月6日（日）9:00～
 ■会場：豊前市立多目的文化交流センター ■入場料：無料
 ●問い合わせ先 豊前市役所 生涯学習課（栗焼）【☎】0979-82-8058



向を凝らし、様々な企画を計画しています。ご家族でも楽しめるイベントが目白押しです。ぜひお立ち寄りください。

（レポーター/まきまき）
 ■日時：11月19日（土）9:30～（予定） 11月20日（日）10:00～（予定）
 ■会場：行橋総合公園・行橋市民体育館
 ●問い合わせ先 産業祭事務局（行橋市役所商業観光課内）【☎】0930-25-1111

行橋産業祭 愛らんどフェア

行橋市



二年に一度、10月頃に開催されている「築上町 神楽・民俗芸能祭」。町内の民俗芸能を多くの方知ってもらおう場として、またほかの地域との交流や、保存継承の取り組みの契機を目的に、郷土の神楽・民俗芸能が一堂に集うイベントです。伝統的な衣装で勇壮に舞う神楽は風情があり、伝統芸能を肌で感じることができます。当日は、町内7団体が出演し、広島県三原市より大草神楽子ども研究クラブが特別出演します。皆さまぜひご来場ください。

（レポーター/うめといと）

■日時：10月30日（日）10:00～
 ■会場：築上町コミュニティセンター（ソピア）
 ■入場料：無料
 ●問い合わせ先
 築上町役場 まちづくり振興課
 【☎】0930-56-0300



第10回 築上町 神楽・民俗芸能祭

築上町



●問い合わせ先 （一社）みやこ観光まちづくり協会 【☎】0930-33-5771

みやこ町と平成筑豊鉄道がタッグを組み、自転車を鉄道車両に乗せて移動ができる「サイクルトレイン」を令和3年（2021）7月よりスタート。観光協会に事前に申込みをすれば、スタッフが同行し自転車で周辺の名所や歴史スポットを案内します。料金は、平成筑豊鉄道の1日フリー乗車券※「ちくまるキップ」を含めて1人2500円。また、「ちくまるキップ」のご提示で源じいの森温泉に無料ご入浴可能です。随時参加者を募集しておりますので、新しい自転車旅をお楽しみください。

（レポーター/ハル）
 ※平成筑豊鉄道運賃（ちくまるキップ中学生以上1,000円）、バイクレンタル料（通常1,500円/日）、保険料、ガイド料含む（別途昼食代）
 ■定員：4名 ※2名様より申込可能です。
 ■料金：2,500円
 ■申込条件：希望日1か月前～2週間前まで要予約
 ■コース：主催者設定コース（赤村～みやこコース）
 ※本事業は、スタッフ同行が必要なため、日程によってはご希望に添えない場合がございます。

自転車×列車の旅 サイクルトレイン in みやこ

みやこ町



ふるさと瓦版

自然への畏れを込めて

蛇淵の滝

龍神秘話

みやこ町

コロナ禍に加え、深刻な水不足を経験した令和4年(2022)の夏が終わり、近年、地球温暖化が進み、大気中に放出される二酸化炭素の量が増えた結果、地球全体の平均気温が上昇し、水河は溶けて海面が上昇し、かつてないほどの異常気象が頻発しています。

そんな中、この夏も杳川の源流、みやこ町帆柱地区にある蛇淵の滝キャンプ場では、涼を求めに多くの人たちが訪れていました。そこで、「蛇淵の滝」にまつわる民話を二つご紹介しましょう。



おむくさんの話

「今から二五〇年ほど前、杳川上流の帆柱村に「おむく」^{とく}という娘が、父さんと二人で住んじよった。おむくの父さんは小椋左次右衛門^{さくさく}ちゅう^{しゅう}「木地師」で、木からお椀を作り出す名人じゃった。

ある晩、おむくの父さんは「この頃は、お椀をこさえる木も取り尽くしてしまつた。おまけに安い瀬戸物が出回つて、お椀は売れず、こんままじゃ正月も迎えられん。春まで、杳川の金山に出かせぎに行つちくる」^{とく}ち言い残し、山を降り川を下り、杳川の金山に出稼ぎに行つてしまつた。

ところが、春になつても父さんは帰らず、夏が過ぎ、冬が来て、また春が来ても

父さんは帰らんやつた。おむくは、時々送られてくるお金を「父さんからの元氣な便り」^{とく}ち、思つて過こしよったけど、「父さんに会いにきたいけど着物がない」^{とく}ちうて、山を降りることはなかつた。ところがある日、「父さんが死んだ。引き取りに来るように」^{とく}ちう悲しい知らせがおむくに届いた。

一人ぼっちで、父さんの帰りを待ちわびよつたおむくは、悲しうて、悲しうて、とうとう、蛇淵の滝に身を投げて死んじしもうた。村人はおむくを憐れんで、小さいながらも立派な墓をたてち、語り伝えてくことした。

ところがこの民話はこれだけでは終わりません。蛇淵の滝に身を投げたおむくは、蛇淵の滝の龍神となつて、村人たちを見守つていたというのです。「蛇淵の滝」の民話はこのように続きます。

蛇淵の滝

ある夜のこと、帆柱村の庄屋屋敷(国の重要文化財・永沼家住宅)の戸を叩くものがあり、何ことか?と庄屋さんが戸を開けてみると、美しい娘が立つちよつた。

「どげしたかね?」^{とく}ちうて庄屋が問うと、「私は、この先半里にある蛇淵に住む龍神でございます。この頃は雨が降らず、瀬が浅くなり、我が身を隠すこともできなくなりました。このままでは神通力も衰え、龍神のつとめも果たせませぬゆえ、山向この山国(大分県中津市)の蛇淵へ移り住むことにいたしました。ついでには、峠越えの兵糧^{ひやうりやう}に、握り飯を分けていただきたく参つた次第でございます。」と、娘は答えた。

庄屋は慌てて家人を起こし、飯を炊き、握り飯をこさえて娘に持たせた。その後の帆柱村では、雨が降らぬ時は、峠を越えて山国の蛇淵で雨乞いをした。すると、娘の言葉通り、必ず雨が降つた。ちうことじゃ。

おしまい





永沼家住宅 国指定重要文化財(建造物)
(みやこ町犀川帆柱721)



永沼家住宅
おむくに渡した握り飯もこの「くど」で炊かれたものかも。



蛇淵の滝に隣接するおむくの墓
現在も地元の人々から手厚く供養されています。



佐治衛門地蔵 (荻田町雨窪)



木地師の娘、「おむく」が

龍神に化身したことについて、みやこ町歴史民俗博物館の学芸員・木村達美さんは、「日本には御霊信仰と呼ばれる現世に遺恨を残して死んだものは荒ぶる神となるも、懇ろに祀れば守護神となる」との信仰があり、おむく(実名はおふじ)は実在の信仰対象として今もお墓が大切にされています。また、庄屋の永沼家は現存し、

山国で「渚守」を務めていた吉峯家には、板川上流や築上郡から来る雨乞い祈願の取り次ぎを行っていた記録も残されています。さらにおむくの悲劇は、子守唄によって永く村人たちに語り継がれ、現在に至っています。(子守唄は一旦途絶えたが、犀川少年少女合唱団が



中津市に残る類例歌の譜面をもとに復元した「こうした伝説に共感した人々の存在や広がりには驚くばかりです。」と述べています。

荻田町の松岡麻利子さんによると、「子守唄の歌詞にある『かんだかな山』のかな山は金ではないが鉱物で、採掘する坑道があったのでは。おむくの父、小椋左次右衛門は、荻田町雨窪で地蔵として祀られ、荻田町にも同じような子守唄が残されている。」と言います。

龍神になったおむくは、どんな少女だったのでしょうか。

この夏も、涼を求める人たちに憩いの空間を提供してくれた蛇淵の滝、豊かな伊良原ダムへと注ぎ、みやこ町、行橋市流域を潤し豊前海に注ぎます。

平成22年(2010)から、板川中流の横瀬、上流の蛇淵、河口の今井の3箇所を回りながら、子どもたちと生物調査を行う「板川生き物探検隊」を実施している豊の国海幸山幸ネット代表の森友敦子さんは、「自然体験によって京築の自然の豊かさを感じながら、地球環境の保全についても関心を持ってほしい」と語ります。

蛇淵に身を投じた森の民である「木地師」の娘おむくと父、左次右衛門が、今もそれぞれの地域で語り伝えられている背景には、私たちの心に自然への畏れ(龍神)が住み続けているからに違いありません。龍神を怒らせてはならないと肝に銘じながら。

●参考文献

- みやこ町博物館より41号
- 「みやこの歴史発見伝30」〜蛇淵をめぐるものがたり〜2009、9
- みやこ町博物館より34号
- 「みやこの歴史発見伝23」〜おむくの墓と子守唄〜2009、2